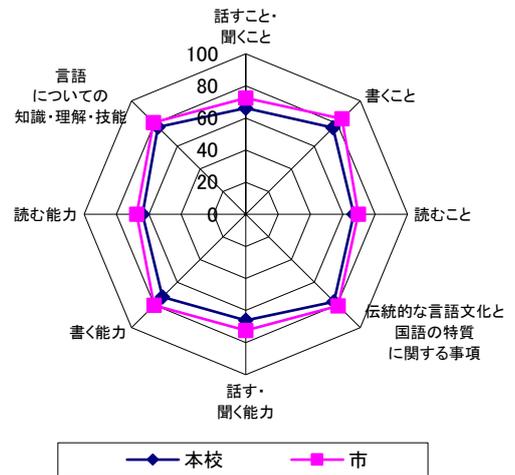


宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	66.2	72.4	70.5
	書くこと	76.3	84.1	70.0
	読むこと	66.8	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.0	80.8	77.7
観点別	話す・聞く能力	66.2	72.4	70.5
	書く能力	73.0	80.2	68.0
	読む能力	63.9	67.5	62.4
	言語口についての知識・理解・技能	76.8	80.8	77.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話の内容を正確に聞き取る」設問の正答率は85%を越えており、おおよその力は身につけていると考えられる。 ●「発言の意図を適切にくみ取る」「話し合いの要点をまとめる」設問の正答率は8割に届かず、課題が見られる。	・話し合い活動では、相手の意見を正しく聞き取るだけでなく発言の意図をくみ取りながら聞く活動を取り入れる。また、グループでの話し合い活動では交代制で誰もが司会を務める機会を持たせる。話し合い全体の流れを捉え、論点を整理して次の話題へ発展させていく司会の技術を習得させる。
書くこと	○「ふたつのポスターの特徴を書く」という設問の正答率は8割弱であり、視覚的情報を正しく捉え言語化するという力はおおむね身につけていると考えられる。 ●「自分の考えとその理由を書く」という設問に対しての正答率は他の設問に比べて低く、やや課題が見られる。	・意見文を書く授業の中で、事実と意見をはっきり区別して書くことや、適切な理由に基づいて意見を述べることを学習に積極的に取り入れる。また、字数や段落構成などの条件に従って文章を書く機会を増やしていく。
読むこと	○文学的文章においては、人物の様子を捉える設問の正答率は他より高い割合を示していた。 ●文学的文章では、人物の言動からその心情を読み取る設問の正答率は5割に届かず、課題が見られた。	・文学的文章の読解の授業では、人物の様子が描かれている部分に注目させ、そこから心情を読み取る学習を積極的に取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み書きについては、「読み」全体の正答率が87.6%、「書き」全体の正答率が81.7%であり、おおよその力は身につけていると考えられる。 ●文法事項については、「用言の活用」(2年次に学習)正答率41.8%、「品詞の分類」(1年次に学習)正答率47.5%とその習得に課題が見られる。	・文法事項の多くを1・2年で学習するため、3学年次で文法を学ぶ機会が少ない。授業の内容とは別に定期的に復習する時間を設ける。